

魅

みりよくびと

力人

Keizo Takahashi

観客の力をいただいて
全員で到達するオペラの
「極み」を体験してほしい。



オペラ「乙和の椿」東京公演の様子(平成13年7月15日福島民友新聞掲載)

平成7年開催のふくしま国体に合わせて創作された県民オペラ「乙和の椿」。医王寺に残る「乙和の椿」の逸話を題材にしたこのオペラの全幕公演を、このたび市制施行110周年記念事業として行います。このオペラの初演と東京公演で佐藤継信・忠信兄弟の父親である佐藤基治役を演じ、今回も同役で出演する福島市出身の音楽家 高橋啓三さんに、この作品に対する思いや見どころ、そしてオペラの魅力を伺いました。

数々の大切な出会いに導かれ 育まれた音楽人生

音楽を好きになったのは、小さい頃にお兄さんのステレオで交響曲を夢中になって聞いたことと振り返る高橋さん。中学生の時から恩師の影響でバイオリンを学んでいまして、大学浪人中に出会った先生に音楽の素質を見出され、転向を決めました。「もともと何でも歌って表現するほど歌うことは大好きで、音楽への転向も抵抗はありませんでした」

音楽に転向した翌年、東京藝術大学に進んだ高橋さんに転機が訪れます。合唱で参加していた藤原歌劇団のオペラで、ソリストの代役に抜きされたのです。これがオペラの道に本格的に進むきっかけとなりました。

また、福島にオペラを根付かせたいと、藝大在学中に仲間たちと



1987年の藤原歌劇団プロデュース公演では、ブッチーニ「ラ・ボエーム」のホルリーネ役を熱演し、好評を博しました(東京文化会館)

オペラ「乙和の椿」は 福島の誇り

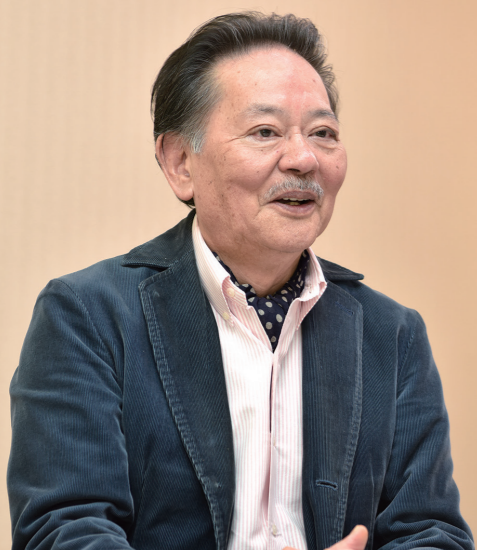
オペラ「乙和の椿」は、家族の絆の深さ、人と人との情けがとでも良く描かれている作品だと高橋

高橋さんは、必死で涙をこらえて演じるそうです。

オペラは、台本も音楽もつくられた虚構の世界と高橋さんは言います。「だからこそ、ソリスト、指揮者、演出家、合唱、オーケストラ、装置、照明など、各分野のプロが全力で『真実』を求めてぶつかり合います。そこに、観客の息づかいや喝采が溶け込むことで会場が一体となります。観客も含めた舞台に関わる全ての人で、オペラの美しさの『極み』に到達できることがオペラの魅力です。難しく考えずにもっと気軽にオペラを見てほしいですね」

9月には市制施行110周年記念事業としてオペラ「乙和の椿」公演を行います。この機会に生のオペラに触れてみてはいかがでしょうか。

「信夫に生まれ 信夫に育つて 培って来た絆 人としての情け 義に生きる心 後の世まで伝えてくれ」と「乙和の椿」終幕で基治が歌うこの部分。同じ信夫の地に生まれ育ち、多くの絆で支えられてきた



音楽家 高橋啓三さん

福島市生まれ、東京藝術大学卒業。第44回日本音楽コンクール第2位受賞。1982年第10回、並びに1989年第17回ジロー・オペラ賞を受賞。在学中に外山雄三(とやま ゆうぞう)指揮「トスカ」のアンジェロツィでデビュー。その後二期会を中心に藤原歌劇団、イタリア歌劇団(NHK)などの公演に出演。東京音楽大学名誉教授。元東京藝術大学講師。二期会会員。日本声楽アカデミー会員。日本声楽家協会理事。啓声会会長。

高橋啓三さん 出演予定

「海にきらめく珠玉のチャリティガラコンサート15」

とき 平成29年7月17日(月・祝) 午後6時 開演

会場 東京藝術大学内 奏楽堂

「独演コンサート2017 第120回 高橋啓三(バス)」

とき 平成29年12月14日(木) 午後7時 開演

会場 日暮里サニーホール コンサートサロン

問 日本声楽家協会 ☎03-3821-5166

～市制施行110周年記念～

オペラ「乙和の椿」公演

とき

平成29年9月23日(土)
午後6時30分(終演予定:午後8時30分)

ところ

福島市音楽堂(福島市入江町1-1)

駐車場が少ないため、公共交通機関をご利用ください。

バス

福島駅東口バスターミナル
2・3番乗り場(保原・梁川方面)から乗車
「日赤前」で下車、信夫山方面へ徒歩3分

タクシー

福島駅東口から片道約千円 約10分

チケット金額(全席指定)

S席 6千円
A席 5千円
B席 4千円(学生 2千円)

チケット発売

7月中旬予定

チケット申し込み

音楽堂、チケットぴあ、
ローソンチケット、文化課窓口で
詳しくは市ホームページをご覧ください。
お問い合わせください。

文化課 ☎024-525-3785
(福島市五老内町3-1 福島市役所8階)



市民が参加する合唱団の練習も着々と進行中